とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	森のゆりかご
担当者名	円保　智里

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

水

＜テーマの設定理由＞

子ども達は日頃から様々な自然事象に興味を持っているが、特に水に親しみ、水の不思議さを感じることが多いため、水との関わりから科学性の芽生えが生まれ、対話的な学びに繋がっていくプロセスを促進していくため。

２．活動スケジュール

令和６年７月～令和７年３月

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

井戸ポンプ設備

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

園庭に思う存分水に親しめる井戸水環境を設け、水に日常的に親しみながら、川を作り、流れを楽しんだり、光に当たって屈折する様子に疑問を感じたり、冷たさを楽しんだり、ポンプで出てくる水の原理に興味をもったり、体の動きとの連動性を協調運動として感覚的に理解するなど、一連の多様な体験を通して、水への不思議さ、おもしろさなどに気づき、探求を深めていった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

日常では、あまり見られないガチャポンから、井戸水が出る様子を楽しむ中で、その水がどこに流れていくのか、玩具や落ち葉を流して楽しむ。水を張っている田んぼから聞こえる、カエルの鳴き声に興味を持ち、カエルの卵や水中にいる生物に興味を持った。身近なカエル、メダカ、ヤゴ、ドジョウになりきり、ごっこ遊びを楽しむ中で、隠れる場所には、ガマの葉や落ち葉が必要など、ビオトープの重要性にも気づきが見られた。保育者は子どもたちの興味関心から、一緒に探求する姿勢を持つことで、翌日以降の繋がりのある保育に意識した。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子ども達は、砂場でも水を遊びに使い、発展させる事が多く、次第に水の不思議に気が付いていく。遊びの中に水は欠かせないと感じた。その中でも五感で感じた事を、友達や保育士に共有し繋げていくことで、生き物との出会いがあり表現活動に繋がった。劇遊びの大道具を作成するために、子ども達と相談していたところ、2歳児が、ヤゴ・メダカ・ドジョウ・カワニナ等は「汚れたお水にいるから、茶色い水作る」と発言していた。池や小川の水は水道水とは違うことを自然と学び、が印象的だった。次はなぜ水道水ではないのかなどに繋げたい。